



森脇義則さん (Mr. Yoshinori Moriwaki)

- ・北海道出身
- ・1990年から株式会社間組（現 株式会社安藤・間）トルコ建築作業所勤務
- ・2008年から同社トルコ営業所&イスタンブール・プロジェクトオフィス代表

【森脇氏の Facebook】

<https://www.facebook.com/voshinori.moriwaki>

森脇さんは、1990年より20年以上トルコ（イスタンブール）に在住されており、本業の建築業はもちろんのこと、ライフワークとしてトルコと日本のために日々活動されています。現在は以下の3つの活動を複合的にされています。

1. トルコ各地における地震防災講演
2. ダウンカフェにおいて、ダウン症の子どもたちの支援活動
3. フェイスブックなど SNS を利用した日トルコ相互文化交流活動
4. 日本人留学生への支援

今回は「トルコで活躍する日本人 vol.1」として、1. のトルコ各地における地震防災講演を中心にお話を伺いました。

【Q1】トルコで地震講演活動をはじめたきっかけは何ですか？

私は北海道生まれではありますが、縁がありまして仕事で仙台に13年勤務し、自宅も仙台にあります。私には娘が2人おりまして、上の娘は松島在住で石巻水産高校で英語教師をしており、下の娘は仙台に住んでいます。2011年3月の東日本大震災発生時、3日間ほど長女と連絡がとれず、最悪の事態も覚悟しました。幸い娘は無事でしたが、後日長女と、この地震体験について話していたときに、「お父さんは、20年以上トルコに住んでいて、トルコの事情に詳しく、トルコ語もできて、トルコの建設事情もよく分かっているのだから、トルコへの恩返しという意味もこめてトルコ人向けに防災セミナーをしたらどう？」という意見をもらいました。長女は、私の影響なのか、もともと福祉に興味があり、東京に就職先があったにもかかわらず、東北の水産業の建て直しに少しでも役に立てば、という意気込みで東北での就職を決めた、という子ですから、その言葉には重みがありました。

一方で1999年に発生したトルコ大地震のあとの9月頃、イスタンブール日本人会が地震専門の大学教授を日本から招聘し、日本人向けに講演会を行ったことがありました。しかし、あまりにも使用言語が専門的で、一般人には分かりにくい部分があったこと、また一般日本人が持っている防災知識や、防災訓練の常識はトルコの建築にそぐうとはいいがた

いことなどから、翌月、イスタンブール日本人会からの依頼でトルコの建築に詳しい私が30分ほどのセミナーを行いました。また2011年の東日本大震災後の6月頃、イスタンブール日本人会にてトルコ事情に添ったセミナーを開催しました。これが私の行った第一回目の防災講演でした。内容的には、短時間で準備したこともあり、現在のものとは異なっている部分はありますが、今のセミナーの原型となっています。その後、その話を聞いた当時の荒木駐トルコ大使より館員向けにトルコにおける地震防災に関するセミナーを開催して欲しいと依頼されました。2011年12月には、在イスタンブール旧総領事館事務所にてトルコ語によるトルコ人向けの初めての地震セミナーを開催しました。

【Q2】 2011年は日本でもトルコでも大地震が発生しました。

2011年は3月に日本の東北地方で、10月にはトルコの東部ヴァンで大地震が起き、今でも復興活動が続けられています。ヴァンの大地震での救助活動では宮崎淳さんが亡くなるという悲しい事件がありました。私は、1890年のエルトゥール号事件、1985年の在留邦人テヘラン脱出、そして今回の地震を経て日本とトルコの絆がより深くなったと考えています。

【Q3】 イスタンブールのほかに、どのような都市で講演をされましたか？

○イズミル：2012年5月にエーゲ海沿いの都市、イズミルで地震講演を行い、TV放送されたことがきっかけとなり、トルコ各地に招待されるようになりました。

○アンタルヤ：地中海沿いの都市、アンタルヤでも2012年6月に講演しましたが、そのきっかけとなったのはフェイスブックです。フェイスブックで知り合いになった在京トルコ大使館の元一等書記官の方がいるのですが、ある時、アンタルヤ県知事からその書記官宛に、日本から地震問題に明るい日本人を招待しアンタルヤで講演を行って欲しいという要請があったそうです。その際に、わざわざ日本から専門家を呼ばなくてもイスタンブールに適任者がいるということでご紹介を受け、アンタルヤに招待されて講演しました。

○シイルト：トルコ東部の都市シイルトにも行きました。シイルト選出のある国会議員の第一秘書の方とフェイスブックで知り合いになり、やり取りを続けていましたが、私が地震講演活動をしていることを話したら、2013年3月に講演会が実現しました。シイルトでは「講演会」というもの自体が珍しいらしく、あらゆる場所に私のポスターが張り巡らされていて驚きました。300人もの方にご参加いただけました。



地方講演の様子



地方講演の様子

【Q4】 講演会をするにあたって、地域や年齢によって反応が違いますか？

地域よりも、年齢による反応の違いがより大きいです。私は講演会をするときには、できるだけ小学校中学年以上・中学・高校を選んで講演をしています。年齢が小さいほど、柔

軟な考え方をもつからです。大学の場合はできるだけ教育学部を選んで講演しています。そうすれば、そこで講演を聴いた学生がそのあと教員となり、将来的に子どもたちに伝えていくことができると思います。また、子どもたちが飽きないよう、笑わせながら、そして強弱をつけながら子どもたちの興味をひきつけるよう心がけて話をしています。

【Q5】活動していく上で、葛藤などはありますか？

トルコ人は、その宗教的土台からか、最終的には神の思し召し（トルコ語で「インシャッラー」）ということで、悪いことは努めて忘れようとする傾向があります。そこで防災の話も、講演会で話を聞くだけでその場限りで終わってしまう傾向があるようです。それでも講演会を続けて、できるだけ多くの人に話を聞いてもらうことに意義があると思うので、学校の校長先生にこちらから直接話しかけたり、ダウンカフェに来ている子どもたちの保護者に呼びかけています。また、教育省の方と話したりもしていますが、なかなかその先に繋がらず、基本受身的なのが悩みです。是非トルコ側からも積極的に講演会に呼んで欲しいと願っています。

【Q6】森脇さんの防災講演会を、自治体の防災体制への批判として受け止める人もいるのでしょうか。

例えば、講演会で、現在イスタンブールに存在する建物の約 70%は、大地震で崩壊するという調査結果を私が説明し、命の三角形の話（地震が発生して部屋の中の家具が倒れても、生き延びるための空間が出来るように家具配置を考えること、そしてそれが結果として地震時に命を救うことにつながるという考え）をすると、自分達もそれくらいの知識はあるし、日本の技術もあまり大したことがない、という発言をされる自治体の建築家やエンジニアの方々もいます。個人的には理解していても、プライドが高い方も多いようです。一方で、先日、宮崎淳公園を建設したイスタンブールのサルエル市長などは、オープニングスピーチで、「宮崎淳さんは地震のせいではなくなったのではなく、建物のせいではなくなったのだ。」という発言をされました。彼はエンジニア出身なのでその実情が分かっているのだと思います。そのサルエル市などは今後防災活動に力を入れていく、とのことだったので、自治体によって防災への取り組み方に差がでてくるのかもしれませんが。

【Q7】今まで講演に行った先で特に印象的だったことを教えてください。

どこもそれぞれ印象的でしたが、一番直近で訪問した小学校では、昼過ぎの時間帯で皆眠そうでした。最初やりにくかったのですが、講演形式から質問形式に切り替え、「トルコと日本とではどちらがより地震が多いでしょう？」と質問をすると、急に子どもたちの目が輝き始め、大喜びで反応し始めました。子どもたちの答えは「日本のほうが地震が多い」だったのですが、実際はそうではなく、日本もトルコも同じ位地震が起こるのだと説明すると、皆とても驚いていました。そこで子どもたちの心を捉え、大地震の際には建物が崩壊する可能性があること、崩壊したときにこの命の三角形を利用しなければならないことと、保存水の大切さを説明しました。水がなければ 3 日間しか生き延びられないが、水さえあれば 2 週間～20 日間は生存可能であることも同時に教えました。通常、大災害の発生後、外部からの救助隊が来るまでに最低 3 日はかかります。命の三角形で命を救い、保存水で生き延びる、という基本を理解してくれたようで、本当に嬉しかったです。



命の三角形



子ども達との交流の様子

【Q8】 森脇さんの行っている防災活動をひとことで説明できるキャッチフレーズのようなものはありますか？

私は理数系の人間なので、キャッチフレーズなどは考えたこともありませんが（笑）、強いていえば「草の根防災」でしょうか。トップダウン方式ではなく、市民レベルですが、裾野を広げる目的でこれからも地道にやっていきたいと思っています。

【Q9】 フェイスブックなど、SNS を積極的に活用されていると伺っていますが？

実は総領事館がフェイスブックを始めたのに啓発されて、私自身もフェイスブックを始めました。今ではすっかりフェイスブックにはまっています（笑）。フェイスブックは皆の反応も早く、おもしろいですね。「いいね！」が最高で 600 以上ついたこともあります。地震講演についても積極的に掲載していますし、皆さんにオープンにしていますので、ご興味ある方は是非ご覧になってください。

【Q10】 これからの活動に向けて、皆様へメッセージをお願いします。

個人的な理由もあり、あと 20 年はトルコに在住する予定です。この活動を自分に与えられた使命と思い、これからも積極的にこの活動を続けて行く所存ではありますが、講演先をとりまとめてくれる人・団体などがあれば非常に助かります。もし手助けして下さる方がいらっしゃればご連絡ください。

<総領事館より>

お忙しい中インタビューにお答えくださり、どうもありがとうございました。

2014 年 3 月 7 日には、総領事館及び日本イズミル文化友好協会（JIKAD）共催によって初めて開催した日本文化週間「イズミルに吹く日本の桜風」行事においても、森脇さんが地震防災に関する講演を行っていただき、トルコ人の高校生約 150 名に対して、防災の重要性について分かりやすくご説明いただきました。

今後も引き続き、日本とトルコの共通の問題である地震、そして防災について幅広くご活動が続けられることと存じます。近い将来、ダウンカフェのサポート活動などの森脇さんの他の活動についてもご紹介したいと思います。



【関連資料】

- 現在まで森脇さんが行った地震防災後援活動表（添付）